



Libris Mortis Part One (未訳)

By Keith Baker

今回のエベロン・エクスパンデッドは、エベロンでのキャンペーンにLibris Mortis:Book of Undead (未訳)の内容を持ち込むことに焦点を置いています。死者の女王からカルナスのスケルトンの軍団まで、アンデッドは常にエベロンに於ける重要な役割を担っています。Libris Mortis (未訳)は、アンデッドとそれと戦う人々の両方の為にアンデッドの心理学に加え、多くの呪文、特技、上級クラスについての新しい情報を与えています。この2部構成の資料は、このアンデッドという素材にエベロン独自のひねりを加える方法を説明しています。

現代の死霊術師

カルナスの外では、負のエネルギーやアンデッドを扱う魔法は、しばしば疑われて見られます。ほとんどの人々は、フィアーやレイ・オブ・エンフィーブルメントといった低レベルの死霊術の呪文について気にも留めていませんが、ゾンビの手下やアンデッド・グラフトを持つウィザードは、コーヴェアの多くの国々に於いて非友好的な反応を取るでしょう。結果として、エベロンの偉大な死霊術師の多くは、孤立して活動することを好みます。幾人かはシャドウやキーパーの導きを受けてそれに近づき、大衆の目からはより魔法を汚しているように思われます。それ以外の者は、まばるの心臓から流れ出る負のエネルギーと接触し、形作る方法として、死霊術魔法を見出し、神秘的な見地からそれに近づきます。



完全に死霊術を受け入れている組織のうちの一つがヴォルの血です。カルナスの王は今では見限っているものの、ヴォルの血はカルナスとラザー公国連合の両方で多くの信者を持ち、これが今日のエベロンに於ける死霊術魔法の主要な源となっています。ですが、ヴォルの血の信徒に何の魔法が可能なのでしょう。Libris Mortis (未訳)の内容全てがこの組織のエージェントに自由に使えるのでしょうか。ペイル・マスターがカルナスの軍団に仕えているのでしょうか？

長く続いているキャンペーンでは、全く新しい呪文を突然導入すると、多くの難しい問題を引き起こします。例えば、ヴォルと最後に戦ったとき、彼女は何故、エンクリスティング魔法を使わなかったのでしょうか。更には、Libris Mortis (未訳)で説明される選択ルールが多くが、世界のパワー・バランスに重要な影響を与えらるのです。カルナシ・スケルトンの軍団は危険ではありますが、《Corpsecrafter》や《Destruction Retribution》特技を使って死霊術師が生み出したものは更に夕子が悪いものになるでしょう。

素材を加えるという選択はいつもDMである君に委ねられていますが、君は絶え間ない質問とスムーズなルールの統合の間の差を埋める作業を終わらせることができます。特に有機的に加えられるのなら、Libris Mortis (未訳)の要素はこれまでよりずっと面白くする素材を提供します。エランディス・ド=ヴォルが持つ僅かなLibris Mortis (未訳)に書かれた秘密は彼女の側近で、ヴォルの血の僅かな高レベルのメンバーだけがアンデッド・グラフトやブレード・オブ・ペインやフィアーを発動できる能力を持っていると考えてみてください。けれども、カルナスはまだ《Corpsecrafter》やトゥルー・ネクロマンサーを持ってはいないのです。こうした場合は、PCがLibris Mortis (未訳)の呪文を体得した現代で初めての人になり得ます。代わりに、これらの力の導入は、冒険でパーティが失敗した

ことを意味しているのです。例えば、パーティはヴォルが世界を破壊しようとするのを阻止しましたが、彼女にクバーラのコーデックスへの逃亡を許してしまったと考えてみてください。例えば、次にパーティが翡翠爪と衝突したとき、彼女のグールは新しい呪文と**見えざる恐怖**のレベルを持っているのです。

ウィザードの呪文習得を制限することは簡単ですが、クレリックではどうでしょう。クレリックは通常、レベルによって与えられた全ての信仰呪文を発動することができますが、彼はどうやって新しい呪文を「学ぶ」のでしょうか。

【魅力】を基準とした秘術呪文の術者はどうでしょう。何がソーサラーである彼の呪文リストにグール・ガントレットの呪文を加える資格があると決めるのでしょうか。可能性は無限にあります。以下の概要は選択を始める上で良い指針となります。

- クレリックはウィザードのような学術的な呪文の理解を持っている必要はありませんが、彼はその基本的な本質までも理解するでしょう。信仰呪文ですら構成要素を持っており、音声構成要素の知識は自動ではありません。キーパーの歌は稀なものであり、クレリックに教えられる言葉と動作の暗黒六帝の聖なる文書は、コンサンクション・フィールドを発動する為には必須です。ウィザードとは異なり、クレリックは呪文を学ぶ為に一度だけ本を読む必要がありますが、本は彼が歩む道に置かれていなければなりません。
- キャラクターがある呪文を発動できるようになる前に、キャラクターはある種類の儀式を経験しなければなりません。全てのクレリックは、エナジー・イーブをシャドウに尋ねることができますが、それは **Qalatesh** の玄武岩でできた祭壇で彼の血を捧げた司祭にのみに呪文が与えられるでしょう。この考え方はクレリックと同様、ソーサラーにも適用できます。もし、ソーサラーが呪文を学ぼうと思えば、彼は必要とされるレベルに達する前に儀式を行わなければならないのです。同じ手順は特技にも当てはまります。もし君がDMとしてゲームに《**Necropotent (死霊の潜在力)**》のような特技を許すなら、誰もがそれを持てるのではないことを説明し、彼がそれを行役できるようになる前にヴァンパイアの血を飲んでいなければならないことができます。
- 定命の者が呪文を求めることはできません。それは神格、強力な来訪者、古代のアンデッドによって与えられなければなりません。この場合でも同様に君にPCである意味や特に重要なNPCの存在を強調します。キャラクターは、特定の呪文を発動し、特殊な特技を持つ現代に於ける唯一の存在です。

古代の死霊術の達人

エランディス・ド=ヴォルは、どこに新しい死霊術の技を習得しに行くのでしょうか。もし彼女が《**Corpsecrafter (死体加工士)**》の技を知らないとすれば、誰が教えるのでしょうか。ここには君が論理的な根拠を作り出す為の幾つかのアイデアがあります。

カイバーの子供達

エベロンで最も恐ろしい力は、デーモンの時代の支配者、すなわちカイバーの最初の子供達です。これらの精神のそれぞれが他のワールドガイドでは神格に匹敵するものです…彼らは捕らえられている状況でさえ、夢と下僕を通じて世界に影響を与えることができます。

支配者たるKatashkaは死を超える力を持っています。ドラゴンとの古代の戦闘で、Katashkaは多くの恐怖を作り出し、戦争に生き延びた者が現存する最古のアンデッド・クリーチャーなのです。Katashkaはその対立の終りに捕えられましたが、彼の多くのラクシャサの下僕はロード・オブ・ダストの中で未だに自由に行動しています。DMの判断によりますが、これらの魔神達の精神はLibris Mortis (未訳) に記載された全ての新しいソーサラー/ウィザード

呪文や、ペイル・マスター 上級クラスのレベルを持っているかもしれません。ウィザードがラクシャサ達と取引することによってこれらの魔法を学ぶことができますが、何を対価として支払わなければならないのでしょうか。

Katashkaは真の神ではなく、呪文を授けることはできません。しかし、彼はカイバー自身の心によってドラウの闇の魔法を助け、それに近づこうとするものに援助を与えることができます。死のカルトが歴史の中で現れました…ダカーン人の記録には、強力な皇帝によって滅ぼされた死霊術師のセクトが残されており、ガルフアーの勃興以前にこの死のカルトの物語が人々の間で語られています。

Katashkaの狂信者は、Deathbound、Undeath、悪の領域に接触する力を得ます。更に、彼の捕えられている場所の近くに住む人々は、彼の暗黒に触れられてしまうかもしれません。彼が何処に捕えられているかを決めるのはDMである君次第ですが、このコンセプトは墓所、Tainted-Soul特技のよい指針となります。

Libris Mortis (未訳) で紹介されている神々のいずれでも、最初の時代の君主に改変することができますが、その内容をそれぞれ割り当てていかなければなりません。Doresainは特に適切な選択だと言えるでしょう… デーモンの時代の廃墟を探索しているパーティが、グリーブタッチド・グールの力によって、Zakyasに驚愕させられるのです。

クアバルリン

死霊術の技を最初に調べた定命の者は、ゼンドリックに孤立して住んでいたクアバルリンと呼ばれる幾人かのエルフでした。伝説によると、クアバルリンはシャドウ自身から魔法の秘儀を学んだと伝えています。このおとぎ話が真実か誇張かに関わらず、クアバルリンは確かに信じがたい技能を持っていました。彼らは最初の人型生物のヴァンパイアを作り上げたと伝えられており、彼らの有力な市民がヴァンパイアになったものの、結局は捕らえられ、対抗する(魔法の)系統との確執の中で葬られたとされています。神の怒りによって、クアバルリンの都市は大規模なドラゴンシャードの墜落によって破壊されました。

幾人かはヴォル(かわるがわるヴォルの血の基礎を作り上げていった)の系譜がクアバルリンの教えによるものだと信じています。それが真実であったとしても、クアバルリンの秘密の多くが嵐の輪の廃墟に隠されたままになっています。彼らの素晴らしい宝物は、未だにかつての大都市の廃墟の下に埋葬されている古代のヴァンパイアの心に留められている知識なのです。

事実上、全ての死霊術の知識であっても、クアバルリンに基礎を置くことができます。これらのエルフは確実にアンデッド・グラフトを作るべきかを知っており、何名かはペイル・マスター、マスター・オブ・シュラウドス、トゥルー・ネクロマンサーになっていたでしょう。希少な呪文は未だにクアバルリンの金庫に眠っているでしょうし、これらの廃墟から取り出された知識は、《Corpscrafter》や《Necromatic Presence》のような特技をキャラクターに教えることになるでしょう。

一方、クアバルリンの知識は生者にとってもそうであるように、アンデッドにとっても貴重なものです。その為、君はクアバルリンの儀式を通じて特定のMonstarous 特技を得ることができるとしてもかまいません。エランディス・ド=ヴォルがContagious Paralysisを得ることを望むのなら、彼女はまずゼンドリックを探索しなければなりません。あるいは、マスター・ヴァンパイア上級クラスの秘密はクアバルリンの葬られた支配者だけが知っていますが、これらの古代のヴァンパイアはエピック級のパワーを持ち、解き放たれば、エベロンに恐ろしい事態を引き起こしかねません。

幾人かはシャドウのレンズを通じてそれを抽象化することを選びましたが、クアバルリンのクレリックは直接マバールのパワーを引き出していました。クアバルリンの文書を復元し、この道を追うことを決めたクレリックは、Deathbound、悪、魔法、Undeathの領域への接触を増やすことができます。

君の判断によりますが、イブニング・グローリーの追従者はクアバルリンの中で小さな集団を作り上げることができた筈です。その場合、イブニング・グローリー自身は、その動機が他の僚友ほど不純ではなかった最初のクアバルリンのヴァンパイアのひとりであったこともあり得る筈です。彼女は神格ランクは持っていないでしょうし、自らは呪文を

ザ・クローズド・サークル

ガルフアーの初期に、3つのウィザードのサークルが南の王国で誕生しました。それは、アウレオン秘術騎士団 (the Esoteric Order of Aureon)、星明りと影のギルド (the Guild of Starlight and Shadows)、そしてクローズド・サークル (the Closed Circle) です。クローズド・サークルのウィザード達は、変成術、召喚術、死霊術に特化しており、地下竜の力と同様、デルキールとクアバルリンの秘密を解き明かそうとしました。YK641、クローズド・サークルは、シルヴァー・フレイム教会と敵対するふたつのサークルの連合によって壊滅させられました。しかしその研究グループと闇と死の秘密に満たされた魔法研究所は未だにブレランドやダーグーンに隠されているのかもしれない。

エランディス・ド=ヴォルは数千年の歴史を持っています。それが、所詮、数百年しか続かなかった騎士団であるクローズド・サークルの廃墟が彼女に何を齎すのでしょうか。実際のところ、エランディスは歴史と伝統を引き出しているという事実は、彼女が革新的なものに対しては錨のように動かないと考えることができます。クローズド・サークルの人々は正統なものではなく独創的で、彼らの死霊術とデルキールの技術を統合させたものは、Mother Cystやそれに関する呪文のような物に対する効果的な説明になります。もし君がヴォルの血が新しい死霊術の技術を得ることを阻止するシナリオを考えているなら、君は冒険者をゼンドリックに旅立させなくとも、シャーンの地下の暗闇に隠されているクローズド・サークルの要塞を使うことができます。

ヴォルの血のヴァンパイア

ヴォルの血の教えは、アンデッドが教会のチャンピオンであるという考えに基づいています。信者は戦いに於いて自らをより強くする為に快く自らの血をヴァンパイアに捧げます。しかしLibris Mortis (未訳)によれば、ヴァンパイアを動かす最も大きな力は、生命エネルギーに対する逃れられない渴望であり、僅かな血の贈り物よりも、犠牲者にとってより致命的なものへの飢餓なのです。このような生命維持のシステムは、信徒により重大な犠牲を強いるものであり、ヴォルの血のセクトは直ちに虐殺されてしまうでしょう。その為、ヴォルの血に連なるヴァンパイアは、僅かな生命エネルギーに対する渴望を持つに留めるべきです。彼らが生きながらえる、猶予期間の7日間の間に、意志セーブ難易度15を行い、ダメージとして【判断力】に1d4ダメージを受けます。最も簡単な解決案は、この修正を全てのヴァンパイアに適用することですが、君が望むのならもうひとつのヴァンパイアの亜種が存在していてもかまいません。その場合には、その起源がクアバルリンにまで辿ることができるようなアンデッドだけが、この小さな渴望を持っており、Katashkaに作られたものは、絶え間なき渴きを持っているでしょう。

今回は、デスガード、シルヴァー・フレイムの支持者と他のアンデッドと戦うキャラクター、Libris Mortis (未訳)の上級クラス、モンスター、他の側面についての一般的な見解を見ていきましょう。

著者について

キース・ベイカーは小学校のときからDungeons & Dragonsの熱心なファンでした。彼の生活は2002年に彼が Wizards of the Coast Fantasy Setting Searchにエベロンの世界を提出したときに劇的に変化しました。Wizards of the Coast, Incの為にエベロン・ワールドガイドと最終戦争の影の作成したことに加え、彼はAtlas Games、Goodman Games、Green Roninの為に資料を作り上げました。